

<p>1 学校教育目標</p> <p>元気いっぱい 笑顔いっぱい とともに学び合う多良っ子の育成</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>重点1 確かな学力の向上 ○ 力をつける国語科算数科指導の研究 ○ 読書習慣の定着 ○ 基礎・基本の徹底 ○ 基本的生活習慣・学習習慣の定着 ○ 幼保小中連携と交流</p> <p>重点2 豊かな心の育成 ○ 道徳教育の工夫と充実 ○ 人権・同和教育の推進 ○ 生徒指導・教育相談体制の充実 ○ いじめのない学校の推進 ○ 異学年「たてわり活動」による交流の促進</p> <p>重点3 太良町大好きっ子の育成 ○ 太良町の自然、文化、人材等の積極的な活用 [人・もの・ことの活用：多良岳、有明海、地域の人材等]</p>
---	--

3 目標・評価

① 個人差に対応した指導による学力の定着と向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標の周知	・今年度の重点目標を策定し、教職員、児童、保護者への認知度を85%以上にする。 ・重点目標達成のための手だてを各プロジェクトと連携し、推進力を高める。	・学校目標は校内の見えるところに掲示をし、職員の意識化を図る。 ・職員会議、全校朝会等で説明する。 ・学校便り、PTA総会、懇談会等で今年度取り組むことを具体的に説明する。 ・各プロジェクトからの報告や企画委員会等で進捗状況を把握し、推進力を高める。 ・学校教育目標と学級目標及び職員の業績評価表等との関連づけを図る。
	○開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・授業参観の保護者出席率75%以上をめざす。 ・学校行事等への保護者、地域住民の参加延べ人数1,500人以上をめざす。	・日曜参観、運動会、たらっ子学習会、教育講演会等で保護者、地域と連携した教育活動を続け、開かれた学校づくりをめざす。 ・学校だよりや学級だより、HP等の紙面を工夫し、保護者に気軽に読んでもらえるようにする。 ・道徳を中心として様々な活動において、地域人材を積極的に活用する。
	○教職員の資質向上	校内研究及び職員研修の推進	・教科研究及び課題研修の充実 ・ICT機器の利活用の充実・推進 ・服務規律等のコンプライアンスの徹底	・全職員が道徳の授業提案を行い、研究を深める。 ・プロジェクトごとに実態を踏まえた課題研修を立案し、学校全体としての取り組みを推進する。 ・ICT(タブレット端末)を活用した授業について研修を深め実践する。 ・危機管理及び服務規律等の研修の計画的な実施により職員の意識を高める。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	衛生管理の改善・充実	・明るい職員室づくりをめざし、美化や環境を整える。 ・多忙感の解消に努める。	・明るい挨拶や笑顔、感謝の言葉が飛び交う職員室になるよう声かけを行う。職員間のコミュニケーションを図り、相談し合ったり、協力し合ったりする職場作りをめざすとともに情報の共有化を図る。 ・各自の人事評価に明記し、達成できるよう服務に対して意識改革しながら職務に当たる。 ・職員室の整理整頓を定期的に行ったり、連絡黒板を使用したりして計画的に業務遂行を意識させる。 ・タイムマネジメントを行うと共に毎週1回、定時退勤日を毎週金曜日に設け確実に実施できるようにする。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・授業の振り返りで「よくわかった」「わかった」と評価する児童80%以上 ・授業改善に向け、全教員が年間1回以上の授業を公開する。	・毎時間、めあての提示からまとめ・振り返りを意識した授業を心がけ、毎時間授業の振り返りを行う。 ・校内研究を軸として、学年グループ等で授業の相互参観や授業研究会を実施する。
	●学力向上	基礎・基本の確実な定着	・学業指導を徹底するとともに、家庭学習の充実を図る。 ・CRT学力調査結果で全国平均を上回ることをめざす。 ・家庭学習強化週間の得点を95点以上にすることをめざす。	・授業中の正しい姿勢、返事を徹底する。 ・算数ノートの書き方を統一し、ノート指導の充実を図る。 ・学習用具チェックを毎週水曜日に行う。 ・「たらっこカード」を実施する。学習カードには連絡帳・音読カード・日記の機能をもたせ、日々の家庭学習でも力をつけさせる。生活カードの振り返り5項目については、全校で統一し、学習習慣の定着を図る。 ・年間5回、家庭週間を実施し、家庭学習の充実と家庭への啓発を行う。 ・「さんさんタイム」「チャレンジタイム」を設定し、既習事項の復習に取り組ませる。
	●学力向上	言語活動の充実	・自分の思いや考えをもち、発表できる児童80%以上をめざす。 ・学力調査結果を県が示す十分達成レベルに近づける。	・「話し方名人」、「聞き方名人」話型を示して活用を進めることで、話し方、聞き方の技能を向上させる。 ・授業の中で、自分の考えを書く時間を確保し、思いや考えを豊かに表現できる力を育てる。 ・マスターカードを活用し、学習用語への理解を深める。 ・児童全員が国語辞典を準備し、わからない語句の意味をすぐに調べて活用できるようにしていくことで、語彙力や表現力を育てる。 ・様々な学習において、ペアタイムやグループタイムなど交流活動の時間を設け、考えを深めたり、思考力、表現力を高めたりできるようにする。
●学力向上	読書指導の充実	・読書が好きだと言える児童の割合を、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて、90%以上をめざす。	・朝読書の時間の設定し、読書に親しむ時間を確保する。 ・母親部やボランティアによる読み聞かせや、教師による読み聞かせの時間を効果的に組み込む。 ・各学年のお薦めの本や教材関連図書のコナーを設置し、読書の幅を広げるための手立てを取る。 ・図書委員会による読書意欲を高めるための取り組みを工夫する。 ・月1回「親子読書の日」を設定し、家庭での読書を奨励する。保護者からの感想を学校からのお便りに載せて、関心を高める。 ・小中連携の取り組み「6年生の中学校図書室利用」を行う。	

	○小学校低学年の環境改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ご飯」の基本的な生活習慣がきちんとできる児童90%以上をめざす。 ・人の話を最後まで聞くことができる児童を増やす。 ・全員がほぼ毎日宿題をすることをめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日たらっこカードによる生活チェックをして意識付けをする。 ・時間割や学級通信で知らせる。 ・「声のものさし」や「聞き方名人」を掲示し意識付けをする。 ・毎日90字程度の日記と国語、算数の宿題を出す。 ・宿題を毎日点検し、励ましの言葉を添える。
--	----------------	------------------	--	---

② 豊かな人間性を創造する教育活動の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○特別支援教育の充実	教員の専門性と意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する児童の実態把握と共通理解。 ・校内支援会議を経て、支援体制の充実を図る。 ・共生教育を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年始めに全職員で要支援児童の確認をし、支援体制を整える。週に1回の職員連絡会で配慮を要する児童の共通理解を図る。また、月に1回の「共通理解の日」に、全体で支援体制を確認する。 ・学級担任等によるチェックリストを使った児童の実態把握(6月)と校内就学委員会を8月、10月に実施する。 ・専門機関との連携を図り、障害のある子どものための学校生活支援事業の活用をし、支援の質の向上に努める。 ・個別の支援計画の理解を深め、作成と活用を進める。 ・特別支援教育に関する職員研修を長期休み中に1回行う。 ・全校朝会や各クラスの学活に入る等して考える機会を設ける。
	○教育相談	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ、不登校の早期発見・早期改善のために支援の必要な児童の実態を把握し、適切な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と10月にQ-Uを実施して、早めに分析を行い、指導に生かす。 ・実態調査(毎月末の「こころのアンケート」等)により、児童の心の状態の実態の把握に努める。 ・教育相談月間を設定し担任と全児童との面談を実施する。 ・気になる児童、配慮を要する児童について情報交換を週に1回行い、必要に応じてケース会議を開く。 ・不登校傾向児童については経過や対処の方法を共通理解する。
教育活動	●心の教育	自他共に思いやりのある児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の充実 ・道徳教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導やプロジェクトの輪番制による全校集会での話に取り組み多面的な指導を行う。 ・月目標のチェックを継続する。 ・各教科や総合的な学習の時間における体験活動を実施する。 ・ふれあい道徳を実施し、家庭や地域との連携を図る。 ・道徳の時間を充実させ、言葉遣いや友達との関わり方について考えさせることを通して、温かい学級・学校づくりに取り組む。
	●いじめの問題への対応	いじめのない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ0の学校をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのアンケートの結果を活用する。 ・職員間・保護者との連絡を密に行い、課題には早期対応に心がける。 ・年に3回「児童理解研修会」を設け、困っている子どもについての共通理解を図る。 ・いじめ防止対策委員会を開いていじめ防止に努める。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
特定課題	○特別活動	集会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動を年間15回程度実施し、異学年の豊かな人間関係を作る。 ・児童が主体的に企画・運営する集会活動年間3回以上行い、児童の発達段階にふさわしい役割や協力する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割りノートや委員会ノートを作成して、活動の見直しを持たせることで、活動が計画的にできるようにし、内容の充実を図る。 ・縦割り活動では共遊だけでなく、勤労体験や体育的活動、会食を実施する。 ・集会や縦割り活動で、児童が主体的に活動できるように、プロジェクトで十分話し合いをし、アイデアの提示等を行う。 ・集会や縦割り活動の内容を代表委員会で話し合い、児童が主体的に取り組めるようにする。
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着化	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の充実 ・体育的行事を通して、意欲的に運動に取り組む児童を育成する。 ・外に出て遊ぶことが好きな児童85%以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防煙教室、薬物乱用防止教室、歯みがき指導、命の教育講演会を実施する。 ・運動会、水泳大会、マラソン大会、縄跳び大会等体育的行事を計画的に実施し、運動習慣の定着を図る。 ・スポーツ委員会等児童企画のスポーツイベントの実施を促し、運動に親しむことができるようにする。 ・スポーツ委員会に放送で呼びかけさせ、外遊びを奨励する。 ・一輪車や竹馬、ジャンピングボードなどの外遊び道具の充実や、スポーツチャレンジの参加を呼びかけ、児童が積極的に外遊びを行えるようにする。